

八月読みとりおけいこ（中）③

名前（

八月七日から十日まで五条坂では陶器まつりがおこなわれますが、もともとこの時期は「おしよらいむかえ」と言^いって、お盆^{ぼん}に家に帰^{かえ}ってくるご先祖^{せんぞ}さま（おしよらいさん）をむかえに行く期間でした。京都では東大谷や六道の辻^{つじ}へ出かける人が多かったので、そのおまいりの人にも買^かってもらおうと、近くの清水焼^{しみずやき}のしよく人さんがお店をだしたのがはじまりです。

平安時代は平安京エリアの中におはかを作^{つく}ることはできなかつたため、西は化野^{あだしの}、北は蓮台野^{れんたいの}、東は鳥辺野^{とりべの}に死者^{しや}をはこんですてていました。

陶器まつりの行われるあたりはちようど鳥辺野の入り口にあたります。近くには六波羅蜜寺^{ろくはらみつじ}や珍皇寺^{ちんのうじ}などがあり、人々はそのでコウヤマキの枝^{えだ}を^{えだ}買^かい、迎^{むか}え鐘^{かね}をつき、枝^{えだ}にのりうつらせて大切に家の仏^{ぶつ}だんまでご先祖^{せんぞ}さんを^{えだ}はこぶのです。

この辺のお寺には九相観^{きゅうそうくわん}の屏風^{びやうぶ}がかざってあることもあります。十二単^{ひとえ}の檀林皇后^{だんりんこうごう}の体が死^しんで、くさり、ウジにくわれてがいこつになり犬にくわれて風にちり、なくなるまでの絵^えがかかれています。世の中の無常^{むじやう}を教^{しやう}え、かぎりある時間^{じかん}を大切^{たいせつ}にしないといけないことをわからせるためのものでした。

六道の絵^えも地獄^{じじく}のようすがおどろおどろしくかかれ、悪いことをしたら死^しんだあと、こうなるよ、と聞^{きこ}かされた子どもたちはふるえあがったものでした。あめかい幽霊^{ゆうれい}でも知られる「ゆうれいあめ」も売^うられています。もし、陶器まつりにいくのなら、ぜひ六道の辻^{つじ}へも足をのばしてください。こわくてたのしいところですよ。

音読サイン↓

① 何の話でしょう？

（ ） 檀林皇后 （ ） おしよらい迎え

（ ） 清水焼 （ ） 陶器まつり

② 平安京のおはかを作るとき^のきまりはどんなことでしたか？

③ 化野・鳥辺野・蓮台野の共通点^は？

④ 陶器まつりの行われるあたりはどこの入り口ですか？

⑤ ご先祖^{さん}をのせるものはなんですか？

⑥ 九相観の屏風は何のために作られたのですか？

⑦ 六道の絵におどろおどろしくかかっているのは何の絵？

⑧ ここで売られているものは？

（ ） おかき （ ） せんべい （ ） あめ

⑨ あっているものに○をつけましょう。

（ ） 陶器まつりは友禪染の職人さんがはじめた。

（ ） 十二単の人はくさらない。

（ ） 六道の辻はこわくてたのしい。

⑩ 上の話の感想を五行でまとめましょう。

できばえは？

